

針原西遺跡発掘調査報告

—町道針原テクノパーク線道路整備事業に伴う埋蔵文化財調査—

2002年3月

小杉町教育委員会

針原西遺跡発掘調査報告

—町道針原テクノパーク線道路整備事業に伴う埋蔵文化財調査—

2002年3月

小杉町教育委員会



針原西遺跡 オルソマップ



針原西遺跡（北から）

序

小杉町は富山県のほぼ中央部にあって、南部には標高117mの高津峰山を主峰とするなだらかな射水丘陵が北に向かって8km程続き、その北部には広大な射水平野が開け、町域の中心を南北に下条川が流れる緑豊かな町であります。

現在、小杉町域には約300箇所にもおよぶ遺跡が確認されています。このうち3分の2が丘陵部に立地し、平野部には下条川沿いや小河川を中心に約100箇所あまりの遺跡が存在しています。

この調査は平成9年に計画決定されました町道針原テクノパーク線道路整備事業に先立ち実施いたしました。

このたびの調査地は平成2～3年にかけて実施した針原東遺跡の南東に位置し、同遺跡と関連を窺わせる古墳時代前期の溝跡からは、器形のわかる土器が多数出土いたしました。また、近世の絵図にある斐川の一部を調査区の東側で確認することができました。

こうした調査成果をまとめた本書が、今後の調査研究を進めるうえでの参考になり、郷土の歴史を紐解く手がかり及び文化財保護の一助になれば幸いです。

終わりに、発掘調査から報告書刊行に至るまで、終始ご理解・ご協力いただきました地元の皆様をはじめ、関係各位に深く感謝を申し上げます。

平成14年3月

小杉町教育委員会

教育長 稲葉茂樹

例　　言

1. 本書は、富山県射水郡小杉町黒河地内に所在する針原西遺跡の発掘調査報告である。
2. 発掘調査は針原テクノパーク線に伴う道路建設に先立ち、小杉町都市建設課の依頼を受け小杉町教育委員会が実施したものである。
3. 調査期間・面積は次のとおりである。

試掘調査 平成13年 3月28日～30日	調査対象面積 4,000m ²	(延べ 3日間)
本調査 平成13年 12月10日～平成14年1月12日	調査対象面積 670m ²	(延べ 19日間)
4. 調査事務局は小杉町教育委員会生涯学習課に置き、生涯学習課長 御後庄司が総括し、調査事務は課長補佐 高橋 登主任 原田義範が担当した。
5. 調査は日本海航測株式会社に委託した。
6. 調査担当は以下のとおりである。

試掘調査 小杉町教育委員会主任 原田 義範
小杉町教育委員会主事 稲垣 尚美
本調査
調査担当 小杉町教育委員会主任 原田 義範
日本海航測株式会社 宮塚 義人
調査補助 日本海航測株式会社 宇野 康子
7. 調査の実施にあたり、富山県教育委員会文化財課、富山県埋蔵文化財センターから助言・指導をいただいた。また、次の方々から協力を得た。記して深く感謝を表したい。(敬称略 五十音順)
黒河地区安全対策協議会、北陸中央食品株式会社
8. 本書の挿図・写真図版の表示は次のとおりである。
 - (ア) 方位は真北、水平基準は海拔高である。
 - (イ) 基準杭は調査区の北東、約30mに設置した。
 - (ウ) 遺構・遺物の表記は次の網点を用いた。

溝：SD	赤塗：	[■■■]	煤・墨の付着：	[■■■■■]	灰釉：	[■■■■■■■]
------	-----	-------	---------	---------	-----	-----------
- (エ) 遺物実測図の断面は、須恵器は黒塗り、陶磁器・瓦器は斜線を入れた。
- (オ) 挿図の土器・石器・陶器類の縮尺は1/4に統一した。木製品の縮尺は1/4・1/8とした。写真図版の遺物の縮尺は1/3に統一したが、大型の木製品については1/5である。
- (カ) 本書での土層および土器・石器の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局 監修 財團法人日本色彩研究所 色票監修 「新版標準土色帖 2000年版」を用いた。
9. 調査で得た図面・写真・遺物は小杉町教育委員会で保管し、出土遺物には遺跡名を次の略号で記入している。
針原西遺跡 : HWW-IV
10. 発掘調査・遺物整理・報告書作成の参加者は次のとおりである。(五十音順)
石坂なみ子・江川元弘・大杉正夫・柿谷進・鈴木正二・砂原ヨキイ・高橋八智子・長井礼子・温井正明・林えみ子・三上正夫・吉田香代子

本文目次

序文

例言

I 調査の経緯

1 調査に至るまで	1
2 分布調査（平成 11 年度）	1
3 第 1 次試掘調査	1
4 第 2 次試掘調査（平成 12 年度）	1
5 遺跡の立地と周辺の遺跡	3
6 調査の経過	3

II 遺構と遺物

1 基本層序	7
2 古墳時代前期	8
3 奈良・平安時代（第 12 ~ 16 図）	13
III まとめ	
1 時代ごとの遺構と遺物	16
2 デジタル写真測量	16

挿図目次

第 1 図 第 2 次試掘調査 トレンド位置図	1
第 2 図 遺跡の位置と周辺の遺跡	2
第 3 図 米軍写真	4
第 4 図 文政 6 年蟻塚村用水江筋見取絵図	5
第 5 図 古地図復元	6
第 6 図 グリッド杭設定図	7
第 7 図 遺跡全体図（縮尺 1:250）	8
第 8 図 SD01 実測図	9
第 9 図 SD01 遺物出土状況	9
第 10 図 SD01 出土遺物実測図（1）	10
第 11 図 SD01 出土遺物実測図（2）	11
第 12 図 II 河道実測図	12
第 13 図 II 河道上段堆積断面	12
第 14 図 包含層出土遺物出土状況	13
第 15 図 包含層出土遺物実測図（1）	14
第 16 図 包含層出土遺物実測図（2）	15

第 17 図 時代ごとの遺構と遺物	16
第 18 図 空中写真	17
第 19 図 図化用画像（左）	17
第 20 図 図化用画像（右）	17
第 21 図 ポリゴン	18
第 22 図 メッシュデータ	18
第 23 図 オルソ画像	18
第 24 図 オルソマップ	19
第 25 図 CG（北から）	20
第 26 図 CG（南から）	20
第 27 図 コンター図	21
第 28 図 CG モデリング（センター）	21
第 29 図 レンダリングモデル（南から）	21
第 30 図 レンダリングモデル（東から）	21
第 31 図 レンダリングモデル（北東から）	21

I 調査の経緯

1 調査に至るまで

針原西遺跡周辺の遺跡は、東側に隣接する針原東遺跡や西二俣遺跡、南側に位置する黒河・中老田遺跡が知られている。当遺跡は、地元の中学生が昭和63年7~8月にかけて水田の畦や畑の踏査を行い、弥生時代の土器や奈良時代の須恵器・土師器などを採集し、遺跡の存在が明らかになったものである。このときの踏査で針原東遺跡や西二俣遺跡の存在も確認されている。

町道針原テクノパーク線道路整備事業は、昭和41年に都市計画決定された町道東老田高岡線道路整備事業（平成9年変更）が進む中、町道177号線の交通量緩和を目的とした同路線の支線的な役割を担う道路として、平成10年4月に計画立案されている。こうした経過の中、町教委にこの2路線の具体的な施工実施計画が示された。

平成11年9月に町都市建設課と路線内の遺跡の取り扱いについて協議したところ、秋の収穫後に周知の針原西遺跡を含む計画路線内の踏査を実施し、その結果を踏まえ調整を図っていくことになった。

2 分布調査（平成11年度）

分布調査は10月5日に町教委が主体となり、町道東老田高岡線計画路線内全線を対象として実施し、周知の針原西遺跡の推定地をこえた広範囲で、弥生時代から近世にいたる遺物の散布が確認された。この調査結果に基づき、遺物の散布が認められなかった計画路線東西端を除く路線内で試掘調査を実施することになった。

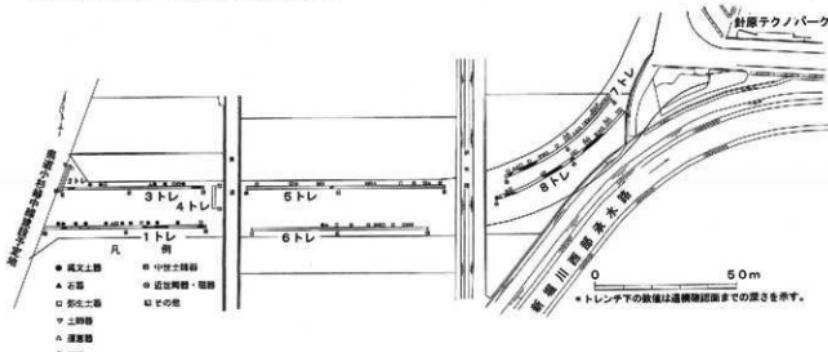
3 第1次試掘調査

平成12年2月21日から25日まで町道東老田高岡線計画路線内の700mの区間で、西から東へと道路敷きに並行する方向に2列の試掘溝を19本設定し行った。縄文時代から近世にいたる遺物と小河川や溝状構造などが確認でき、比較的遺物と構造にまとまりの見られた二地区2,000m²で本調査（平成12年度実施）が必要となった。

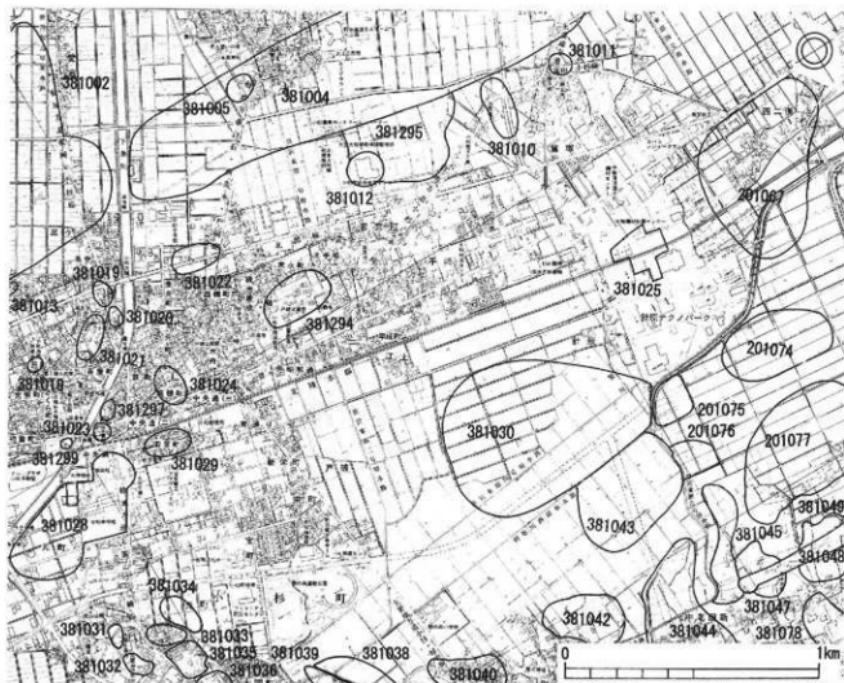
4 第2次試掘調査（平成12年度）

第2次の試掘調査対象地は、平成11年度の分布調査では遺跡に支障のない範囲と判断されていた。しかし、同年7月17日から12月22日までに実施した本調査から近隣に縄文時代の集落などの存在が想定されたため、第1次試掘調査を行っていなかった町道東老田高岡線と針原テクノパーク線の道路用地を対象に試掘調査を実施することになった。

調査は平成13年3月28日から30日に行い、12年度本調査実施の東側隣接地から縄文時代の川跡の一部と遺物が確認され、約900m²の本調査が必要となった。また、針原テクノパーク線の東端で弥生土器が大量に出土した包含層を確認し、約650m²の本調査が必要になった。



第1図 第2次試掘調査 トレンチ位置図



第2図 遺跡の位置と周辺の遺跡

遺跡番号	遺跡名	時期	遺跡番号	遺跡名	時期
小杉町			381038	三谷道路	旧石器・弥生・古墳・奈良・中世
381002	愛宕道路	弥生・古代・中世・近世	381039	「ワ山古墳群	弥生・古墳・奈良
381004	HS-04 遺跡	古代・中世・近世	381040	黒河新遺跡	古墳・奈良・平安・近世
381006	白石道路	縄文・弥生・古墳・古代・中世・近世	381042	黒河遺跡	古墳・奈良・平安・近世
381010	愛塙村中道跡	弥生・中世・近世	381043	黒河・中老田道路	奈良・平安・中世
381011	愛塙道路	弥生?	381044	黒河八日遺跡	旧石器・弥生・古墳・奈良・中世・近世
381013	三ヶ丁道路	中世	381045	扇塚貝塚道路	縄文(中)・奈良・平安・中世
381019	高寺道路	弥生・平安・中世・近世	381047	御所 No.16 道路	
381020	復興小杉焼跡口窓跡	近代	381048	黒河新三十三道路	近世
381021	十社宮遺跡	古代	381049	劍鉾 No.17 遺跡	奈良・平安・中世
381022	戸破神田遺跡	古代・中世	381294	戸破神田遺跡	奈良・平安・中世
381023	小杉燒高窯空室	近世	381295	戸破若宮東遺跡	弥生・中世
381024	高穂町遺跡		381297	小杉燒旧日動屋敷窯	近世
381025	斜原東遺跡	弥生・中世	381299	坂井小杉燒仲吉原窯跡	近代
381028	加茂社遺跡	弥生・平安			
381029	若草町遺跡	古代・中世			
381030	新原西遺跡	縄文・弥生・中世・近世	201067	西二保道路	弥生・奈良・平安・中世・近世
381031	太陽山温泉遺跡	古墳(初期)	201069	東老田IV 遺跡	奈良・平安・中世
381032	小杉燒瓦輪窯跡	近世	201074	中老田V 遺跡	縄文(中・後)・古墳・奈良・平安
381033	中山北A 遺跡	古墳(初期)	201075	中老田VI 遺跡	奈良・平安・中世
381034	中山北B 遺跡	縄文・古代	201076	中老田IV 遺跡	奈良・平安・中世
381035	中山中道路	旧石器・縄文・弥生・古墳・奈良	201077	中老田III 遺跡	奈良・平安・中世
381036	中山南道路	弥生	201269	中老田VII 遺跡	奈良・平安・中世

5 遺跡の立地と周辺の遺跡

小杉町は北側に平野部、南側に丘陵部を配し、それぞれ射水平野・射水丘陵と呼ばれている。射水丘陵は北に向かって延びており、遺跡の立地する黒河地域では丘陵が埋積して沖積地となっている。射水丘陵から流出する河川はおおむね北流するが、沖積地に入ると蛇行する。蛇行部分では自然堤防や後背湿地が発達し、多くの遺跡が残されている（第2図）。

針原西遺跡は平成8・9年に調査された針原東遺跡の南西部に位置し、斐（めとり）川あるいはその支流と考えられる河川（現：新堀川、文政6年の古地図には「女取川」との記載が見られる。）の左岸に位置する。昭和22年に撮影された米軍写真（第3図）を見ると、耕地整理前の田畠が明瞭に判読できる。遺跡の北側に位置する民家群は、現状の位置をとどめており周辺の道路も変化していない。また、画像をスキャンし明るさやコントラストを調整すると川河道と考えられるソイルマークが判読できる。今回発掘調査した部分と前述した北側の民家の間に大きな河川のソイルマークが見える。発掘調査区の北側の駐車場と民家の間に当たる部分で、現在は田として使用されているが、発掘調査期間中も乾燥することはなく水がたまっていた。この旧河道のソイルマークと現：新堀川が合流して、針原テクノパークの南側を通り北流するようなソイルマークが見えるが、これは旧：新堀川の流路で針原テクノパークはこの河川の自然堤防上にのっていると考えられる。

第4図に文政6年の古地図を掲載した。これによると現：新堀川は調査区域の東側に流れていって、現在の針原テクノパークのある位置には、3軒の民家のような建物が記載されている。周囲より若干高い自然堤防が存在していたことが窺える。第5図には米軍写真・現在の航空写真・古地図のオーバーレイしたものを掲載した。発掘調査区の東側で確認された川河川の跡と考えられる流路（本報告書では川河道と称している。）がこれに相当する。

6 調査の経過

（1）試掘調査

試掘調査は平成13年3月28日から30日にかけて行った。道路線形に沿って2本のテストレンチを掘削し、遺構の確認と遺物を採集した。その結果、本発掘調査面積を670m²とした。

（2）本調査

試掘調査の結果を踏まえ、本調査は平成13年12月10日から平成14年1月12日まで、延べ19日間にわたって実施した。

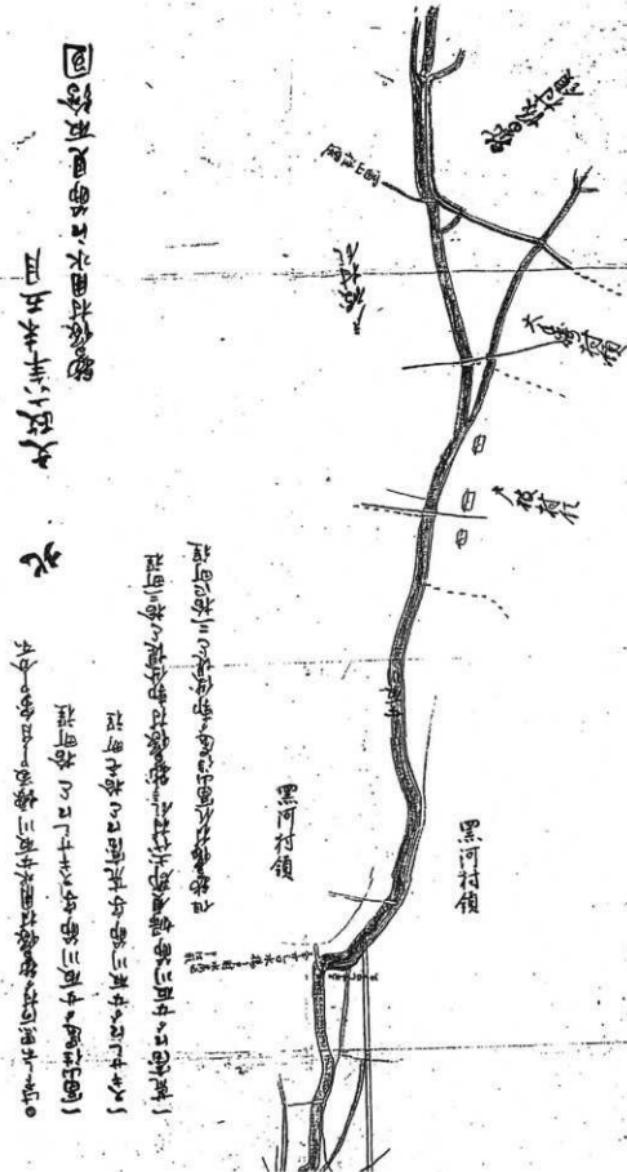
発掘調査にあたりグリッド軸を達成した。グリッドの設定は発掘区を10m単位に大きく分け、西から東にA,B,C…、北から南に1,2,3…とグリッド列に名称を付け、北西の交差点のアルファベットと数字の組み合わせで10m単位のグリッド名称とした。また、遺物採集の関係から10mグリッドの内部を2m単位に細分した小グリッドを設定した（第6図）。包含層から出土した遺物については、AI-11のように注記し出土層位を付け足して取り上げた。

（3）遺物整理・報告書作成

本調査が終了した平成14年1月13日から3月11日まで遺物整理と報告書の作成にあたった。一部、木製品の保存処理（PEG処理）は現在も継続中である。



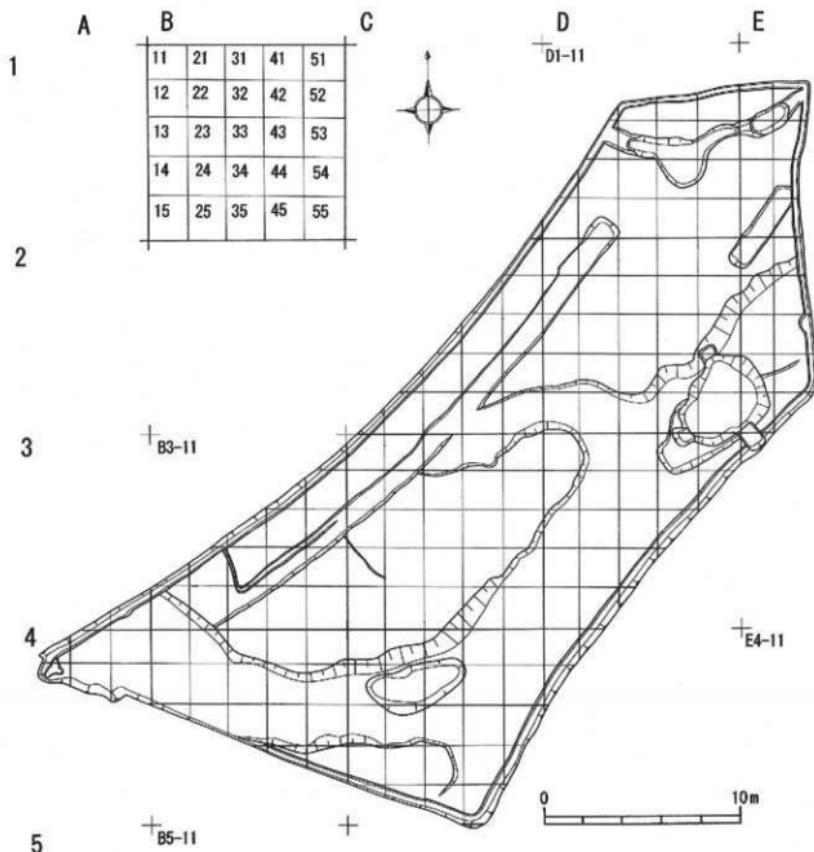
第3図 米軍写真



第4図 文政6年新塚村用水江筋見取絵図（上が北）



第5図 古地図復元

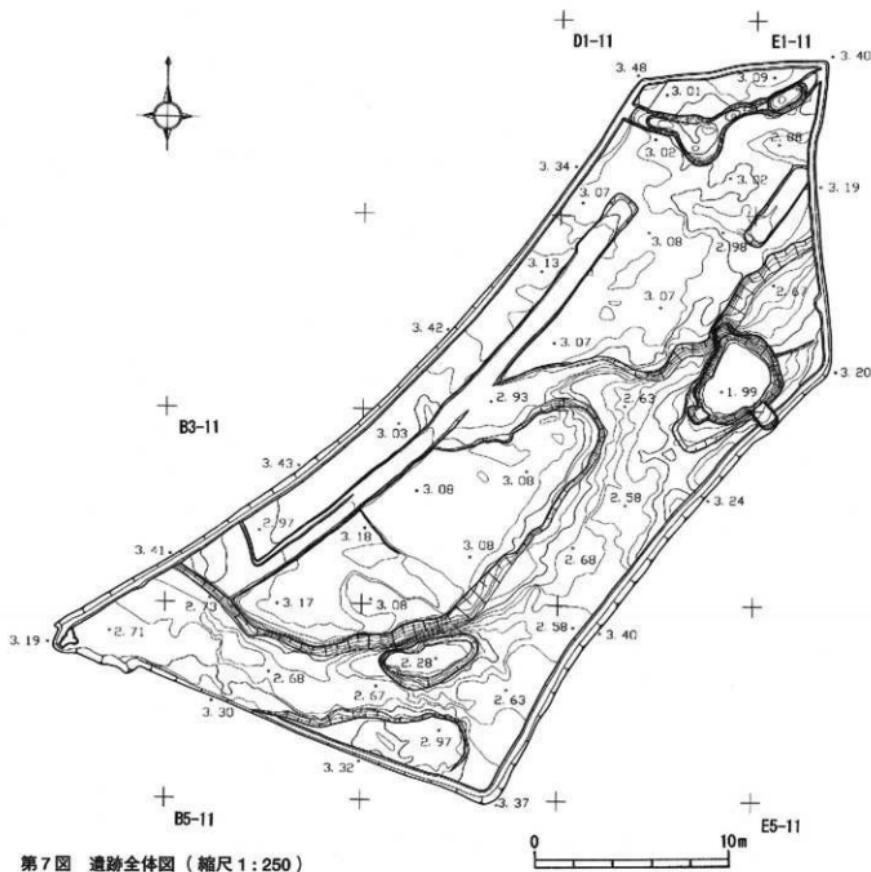


第6図 グリッド杭設定図

II 遺構と遺物

1 基本層序

基本層位は4層からなり、I層：淡黒色の耕作土（約15～20cm）、II層：黒褐色粘質土（約15cm）、III層：灰褐色粘質土（約5～30cm）、IV層：黄褐色粘質および砂質土の地山層となる。旧河道と考えられる部分では、これらの下位に青灰色シルト層や砂層が存在する。III層の灰褐色粘質土層は遺跡全面には存在せず、発掘調査区の中央から南側にかけて確認された。当初遺物包含層かと考えたが、遺物はIII層の上面で確認されたのみでIII層中からは発見されなかった。

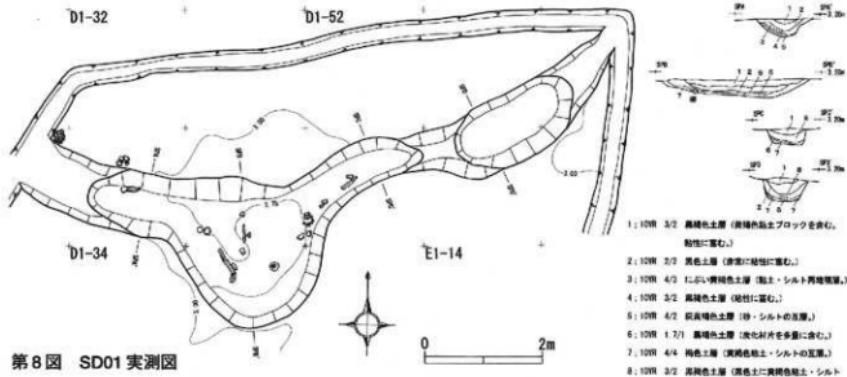


第7図 遺跡全体図（縮尺1:250）

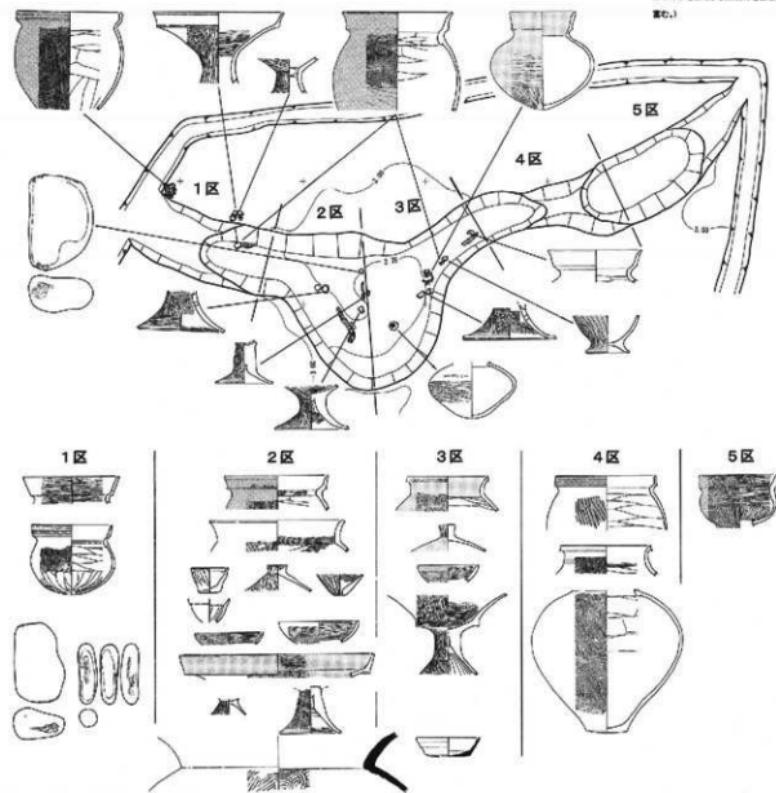
2 古墳時代前期

SD01(第8~11図) 発見された遺構はSD01のみで調査区北側に位置する。円弧状の平面プランであり調査区外に延びる。当初単なる溝と考えていたが、遺物の出土状態やところどころピット状に深く掘り込まれている部分もあり、また一部は南側に大きく張り出るので、HS-04遺跡(小杉町教育委員会 1999)で検出された住居の周溝とも考えられる。幅は平均60~80cm、南側に張り出す部分では2mを測る。円弧を復元すると直径約20mになる。溝の土壤堆積断面を観察するといくつかの層は円弧の中央方向から土砂が堆積しており、これからも内側に盛土があったことが想定される。

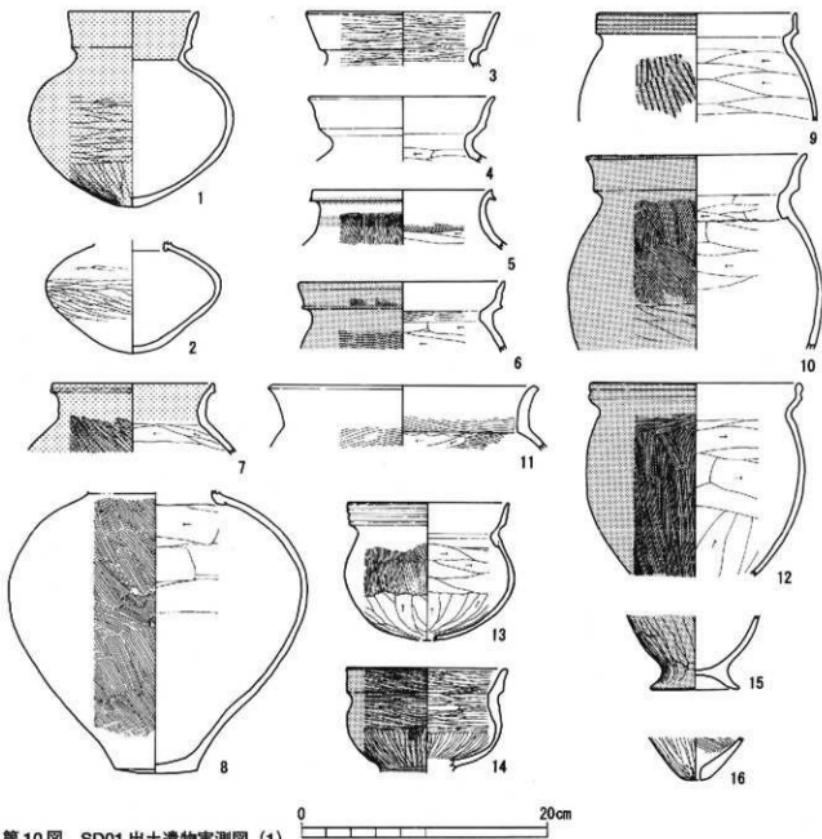
遺物は溝底から5~15cm程度浮いて出土している。遺物実測図の1に示した壙は細かく破碎された状態で出土し、



第8図 SD01 実測図



第9図 SD01 遺物出土状況

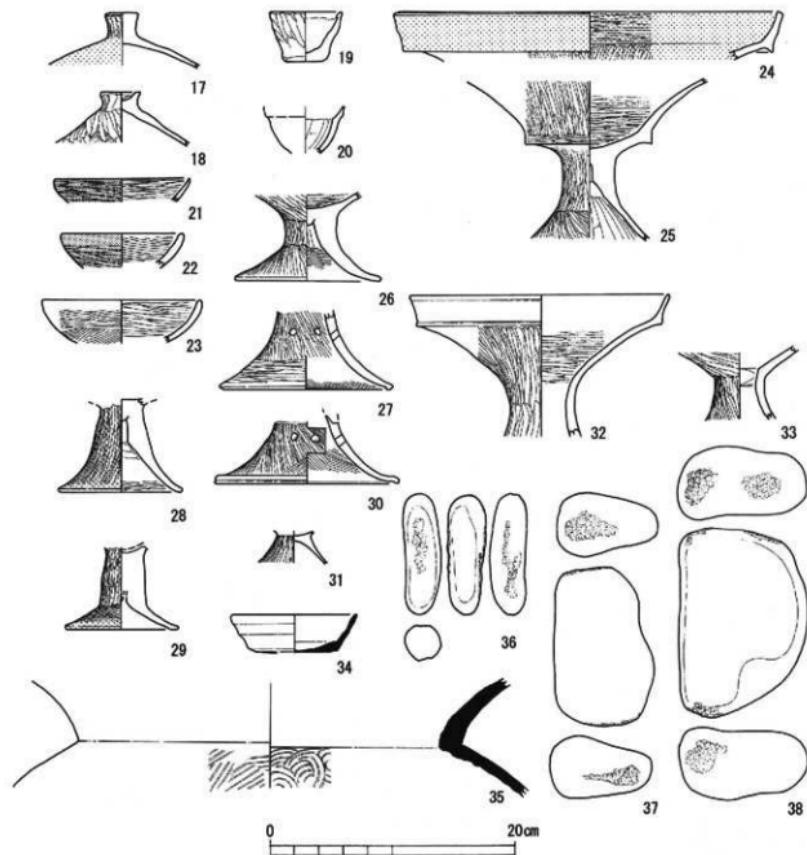


第10図 SD01出土遺物実測図(1)

割れ口も摩滅していた。おそらく現地で破砕されて破棄されたものと考えられる。また、南側に張り出した部分から出土した壺(2)も頸部以上を欠き摩滅していた。

高环脚部(30)は壺(1)より10cm深い所で出土し、埋没時期に時間差があると考えられる。こうしたことから水路というより住居の周溝と考える要素が多く認められる。

甕(9)の外面には「印目」と考えられる痕跡が存在し、土器自身も他の土器より器壁が薄く胎土も緻密である。擦入品と考えられるが小さな破片であり断言はできない。17・18は蓋で17の外面は赤塗されている。24は同様に赤塗された高環で口縁の内面は横向方に、環部には同心円状の細かなヘラミガキが施される。25にも細かなヘラミガキが認められるが赤塗はない。13・14は小型広口壺で14の外面に細かなミガキが見られ、黒色処理(漆?)がなされているようである。36～38は敲石で36の中央平坦面に敲き痕が残る。他は長軸両端に敲き痕を残す。

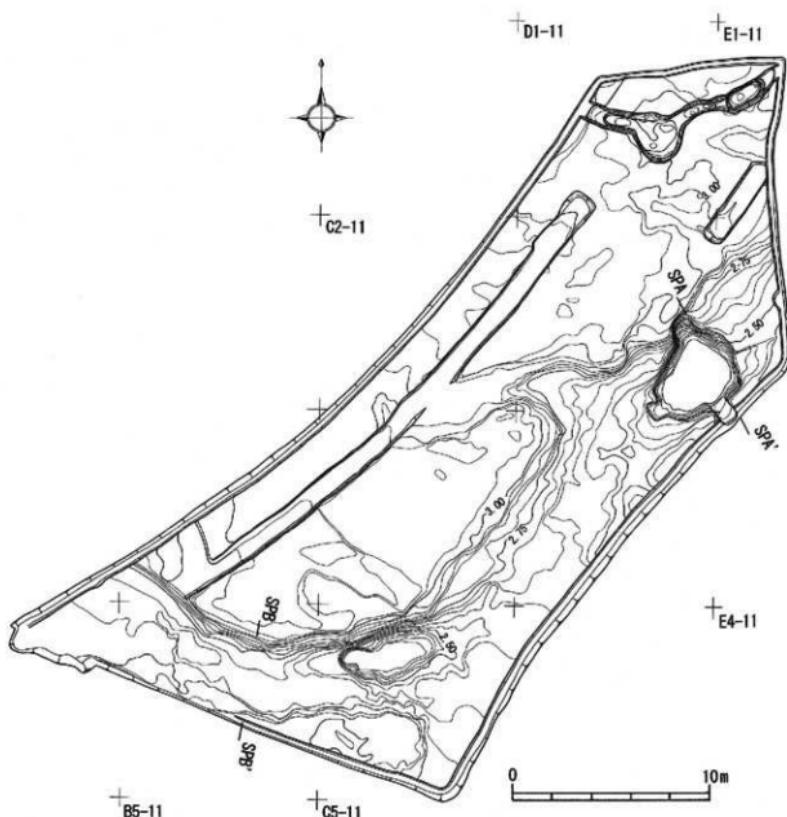


第11図 SD01出土遺物実測図(2)

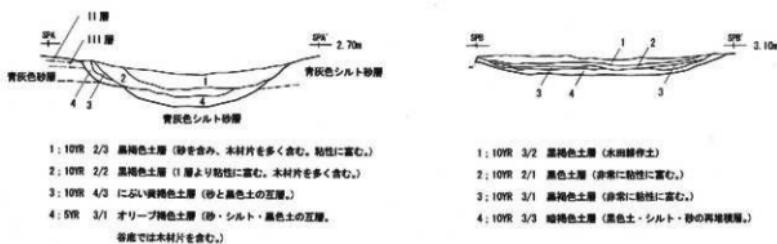
旧河道(第12~16図) SD01以外の遺構は確認できなかったが旧河道と考えられる幅の広い溝が確認された。前述したように、III層と遺物包含層(II層)が直接地山のIV層や下位の砂層に到達しており、遺物も多く包含している。特に調査区中央東側の旧河道底からは数点の木製品・土器と共に多くの流木が出土した。また、部分的に深く掘りこまれている部分もあったが、人為的な掘り込みとは考えられない。

55は大型の高杯で杯部内面は横方向に、外面には縱方向の細かなヘラミガキが施される。63は土鍤。

90は一部を切断したものが鋭利な切断面が残る。表面は細かく鎌鉗状の工具の切削痕を残す。91は桶状の容器の底板か、いずれもスギ材である。92は付け札状の形態をなすが明瞭な切削痕はない。93はスギ材で竹とんぼ状の形態をなし中央部に径1.2cmの孔をあけている。94・95は炭化した木材片で94の端部には切削痕がある。96・97はところどころに鎌鉗状の切削痕が認められる。96の端部は穿孔されたものか。98は砧状の形態をなす未製品であり広葉樹であ

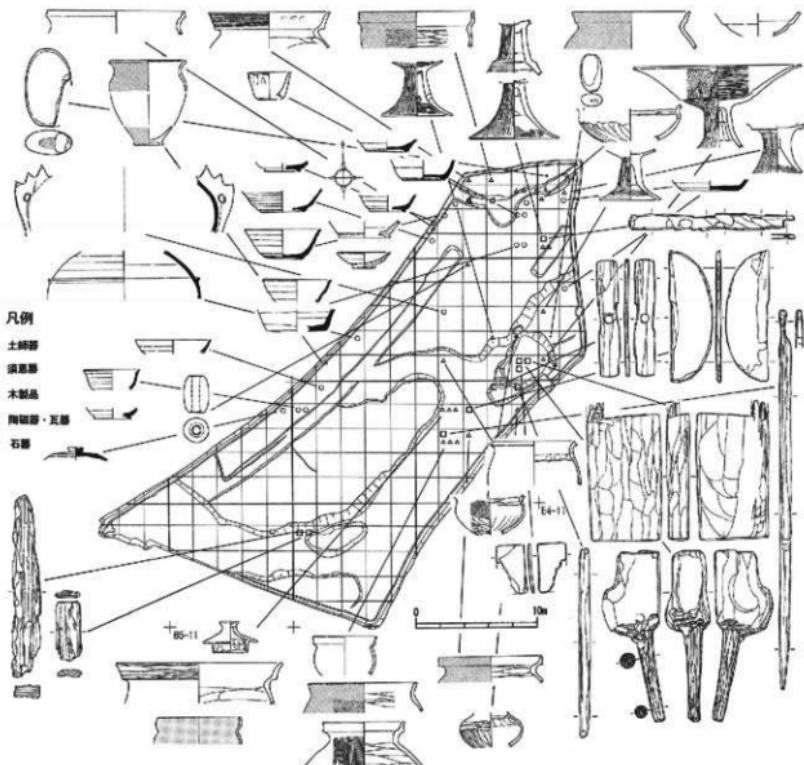


第12図 旧河道実測図



第13図 旧河道土壤堆積断面





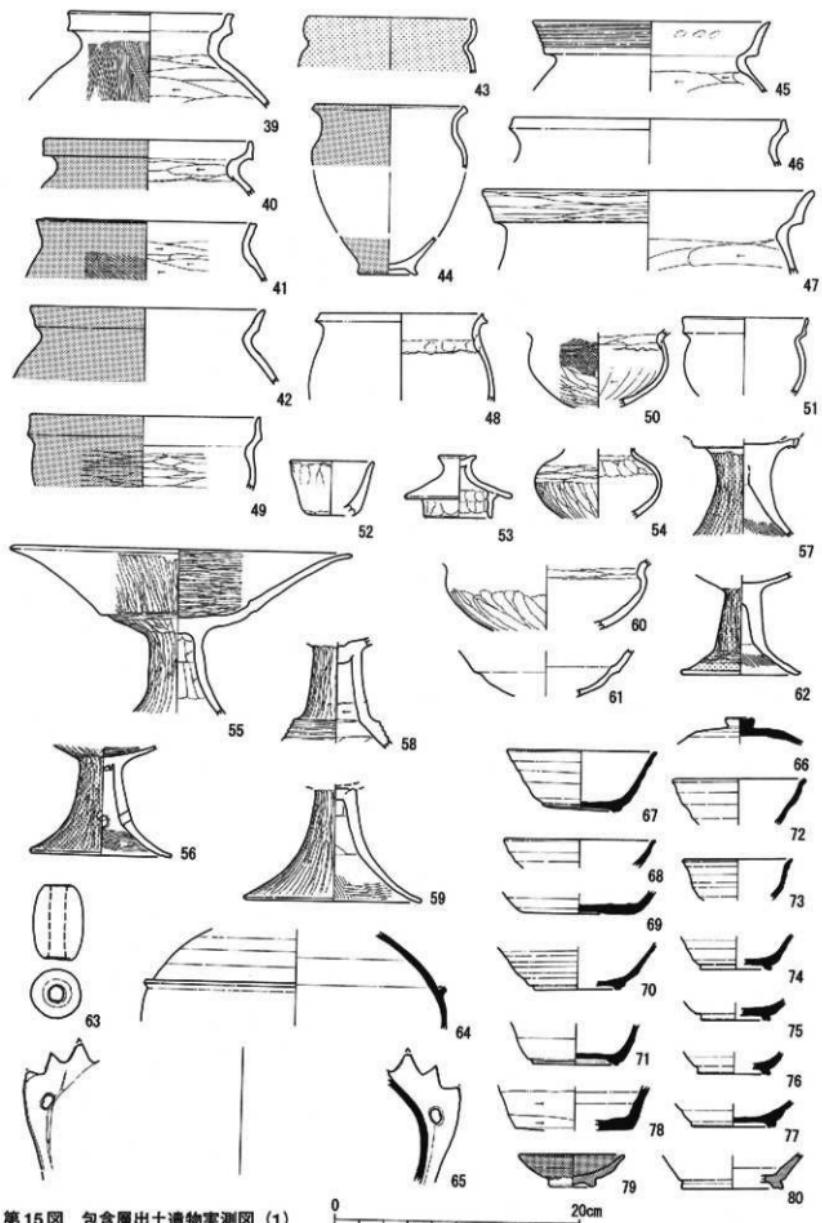
第14図 包含層遺物出土状況

るが樹種は断定できない。99の端部は一部が剣の柄状に削りだされている。94・95・97以外の木製品は、調査区中央部東側の二つの沢が合流する部分の谷底部から発見されている。この周辺からは古墳時代前期の土器が多く出土しており、これらの木製品も同時期の所産と考えられる。

3 奈良・平安時代（第12～16図）

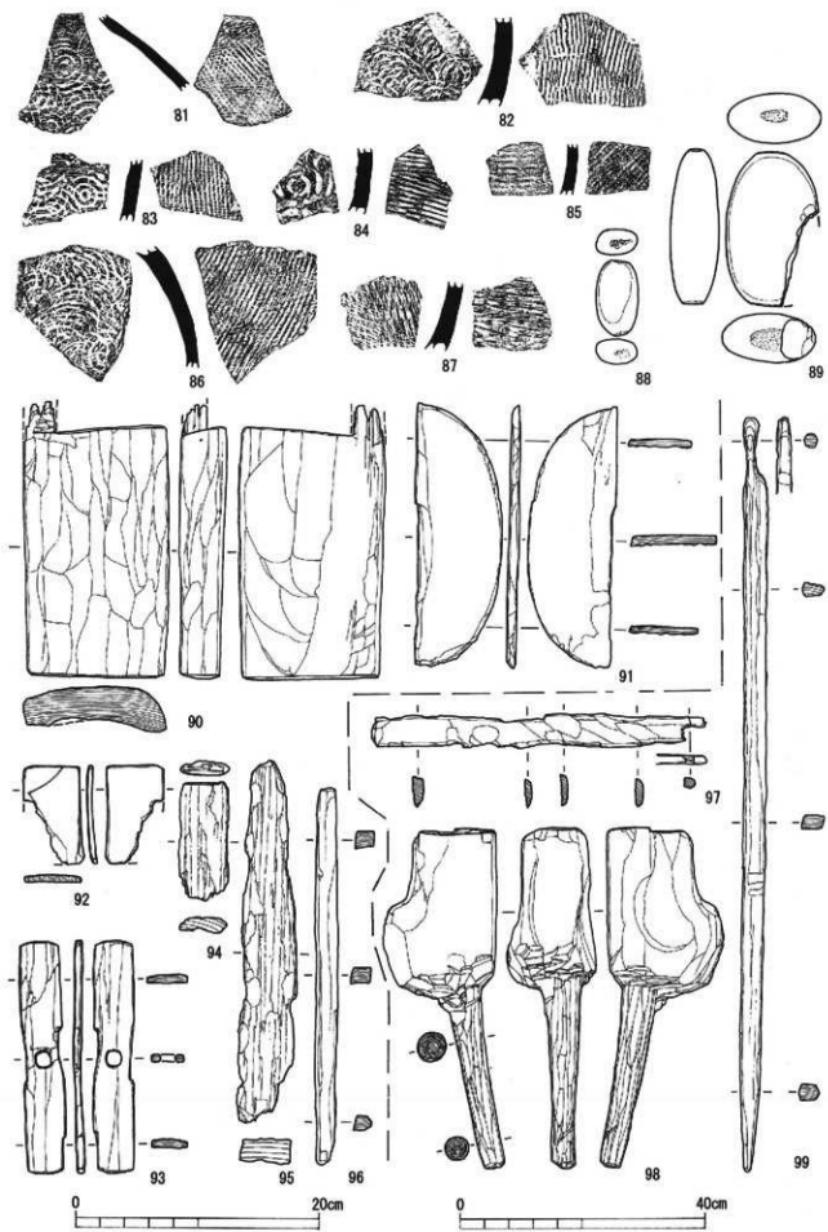
特記する遺構は発見されなかったが発掘調査区北側と東側旧河道から遺物が出土している。67はSD01の上面から発見された。SD01の埋上面周辺からは須恵器も発見されているので、SD01は奈良・平安時代まで埋まりきらずに存在していたと思われる。

参考文献 小杉町教育委員会「HS-04 遺跡発掘調査報告」1999年3月



第15図 包含層出土遺物実測図(1)

0 20cm



第16図 包含層出土遺物実測図 (2)

III まとめ

1 時代ごとの遺構と遺物

今回の調査で確認された遺構は2時期に大別できる。

古墳時代前期の遺構はSD01のみであるが旧河道から多くの遺物が発見された。木製品を含む土器類は旧河道の谷底部分から発見されており、調査区周辺が洪水に遭遇したことが伺える。

SD01は単なる水路としての溝と考えるより、遺物の出土状態や掘り方からHS-04遺跡で検出された掘立柱型住居に伴う周溝と考えたほうがよさそうである。溝の土壤堆積断面を見ても水が流れた痕跡は認められず、水路としての溝とは考えにくい。

HS-04遺跡の例から住居本体と考えられる部分は調査区外へ広がる。

奈良・平安時代の遺構は確認されなかった。遺物が調査区の中央部から北側にかけて出土しており、SD01の埋土上部や周辺からも発見されていることから、SD01は奈良・平安時代まで完全に埋没せずに痕跡が存在していたと考えられる。反対に旧河道の下位からはこの時代の遺物が発見されておらず、上面からわずかに検出されたのみである。よって旧河道は、古墳時代前期に洪水を受け一気に埋没したと考えられる。旧河道の土壤堆積断面を見ても、III層の灰褐色粘質土がブロック状に堆積している部分があり、埋没が急激に進んだと考えられる。

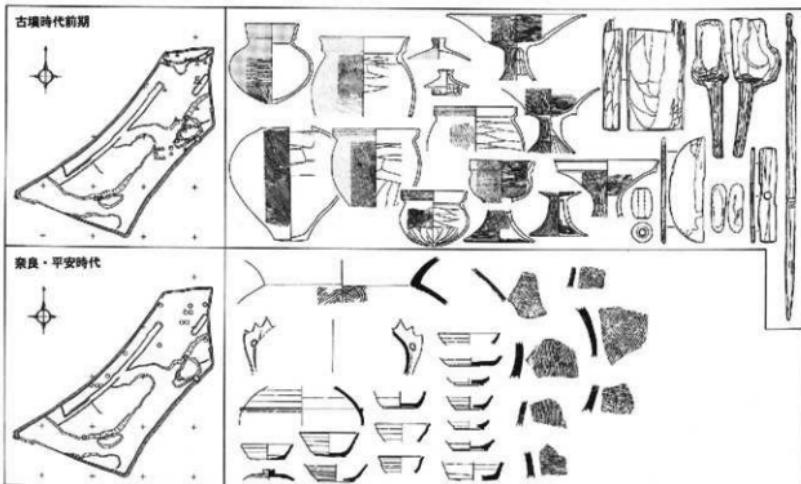
2 デジタル写真測量

遺跡の発掘調査を迅速に進め、実測図・写真・記述以外の情報保存手段を確立するために、当遺跡ではデジタル写真測量の技術を多用した。土壤堆積断面図や遺物の出土状況平面図を作成することはもとより、遺跡・遺構の表現方法にCGを活用した。

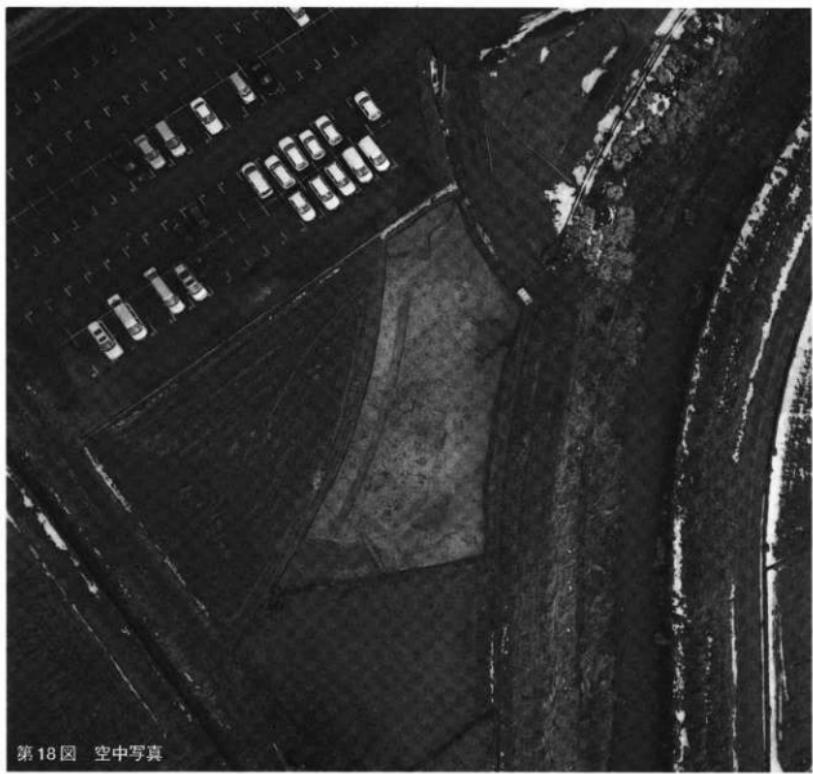
以下に当遺跡で実施したデジタル写真測量の方法を概略する。

(1)撮影プラットフォーム

撮影は脚立の上から手持ちでデジタルスタイルカメラを用いて行う方法とラジコンヘリから撮影する方法を採用した。これらの方法のほかに、跳ねつるべ（釣竿）方式や気球を使う方法等、多くのプラットフォーム（カ



第17図 時代ごとの遺構と遺物



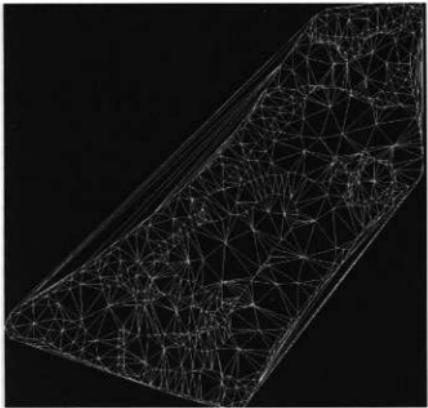
第18図 空中写真



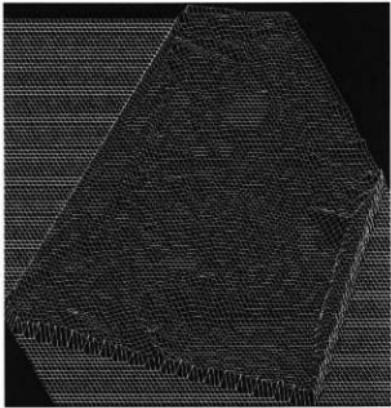
第19図 固化用画像（左）



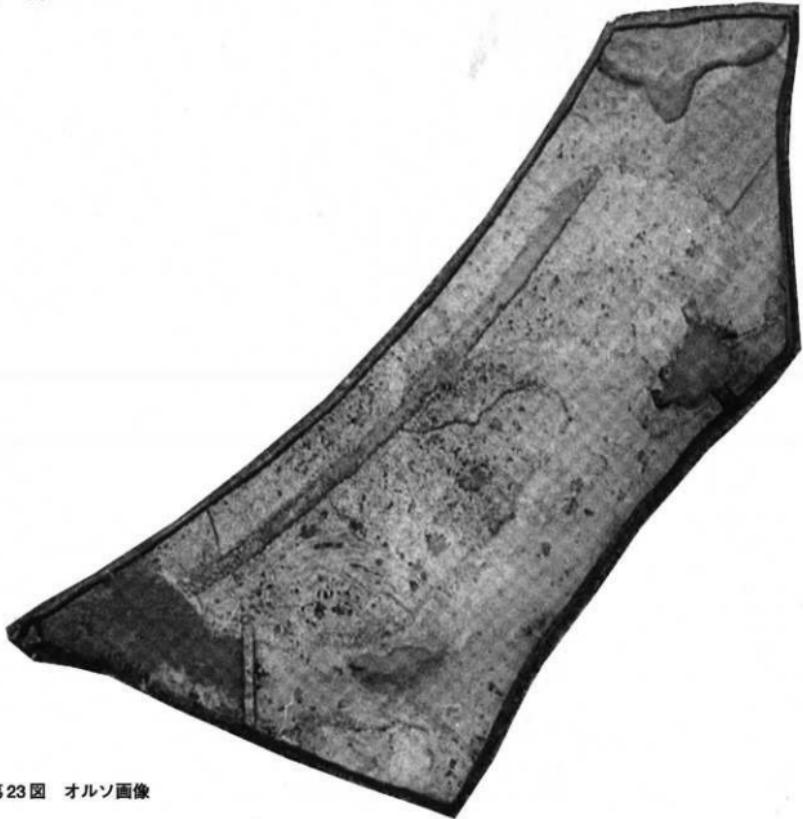
第20図 固化用画像（右）



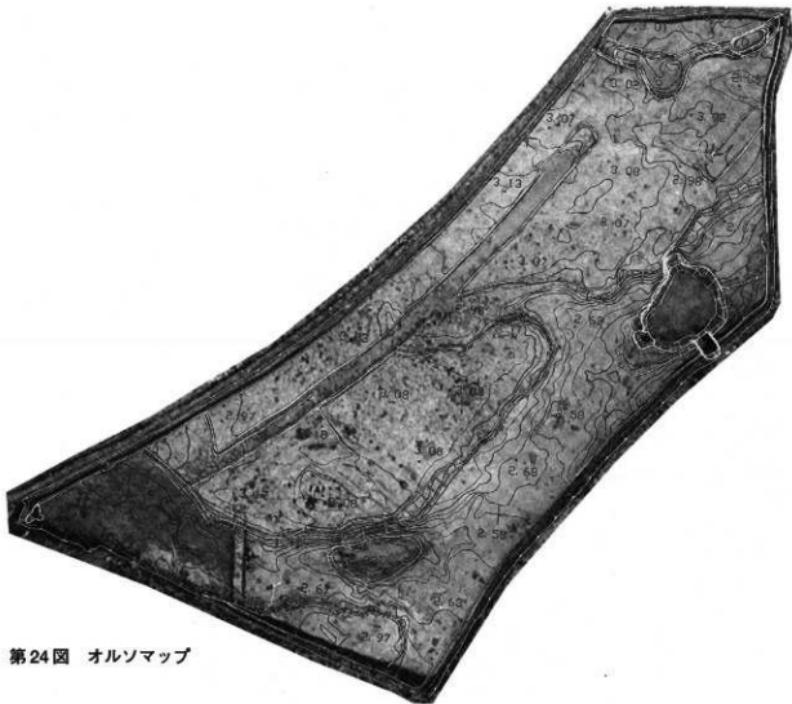
第21図 ポリゴン



第22図 メッシュデータ



第23図 オルソン画像

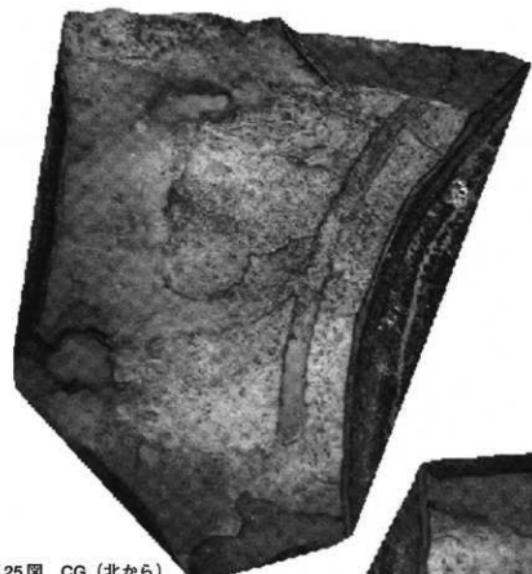


第24図 オルソマップ

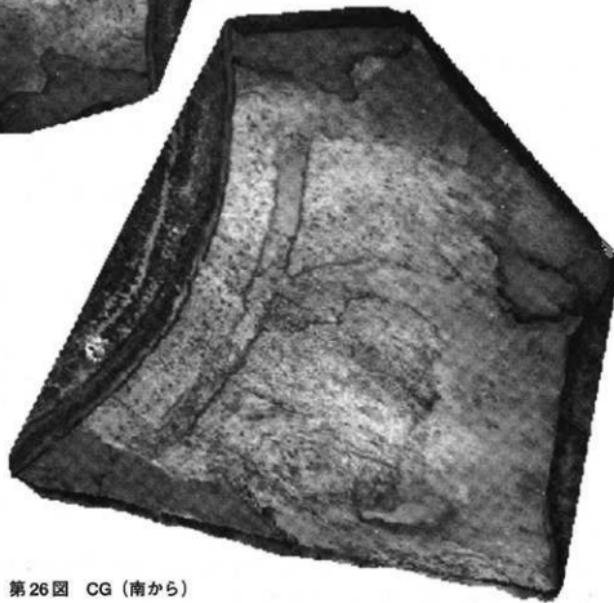
メラ架台)が考えられる。今回使用したデジタルスタイルカメラはキャノン社製D30であるが、レンズディストーション(レンズ収差)が計測してあれば、どのようなデジタルカメラでも図化は可能である。

- (2) 上空から撮影した画像(第18図)はデジタル画像であれば現地でプリントアウトができるので、基準点の確認や図化に必要な注記がその場で行える。
 - (3) 撮影したステレオ画像(第19・20図)から解析図化システムを搭載したコンピュータに直接データを送り、計測点のポリゴンデータ(第21図)を作成する。作成したポリゴンデータから貼り付ける(レンダリングする)画像の分割を決め、メッシュデータ(第22図)を作成する。
 - (4) 上記のデジタルデータを基にオルソ画像(第23図)を作成する。ここまでではラップトップコンピュータで対応が可能であるので、発掘調査現場でオルソ画像が作成できる。オルソ画像が出来上がればこれをまたプリントアウトして捕描する。オルソ画像であるから縮尺を決めてプリントすれば、現地で遺構の法量の確認も可能である。
 - (5) ステレオ画像から図化したデータをオルソ画像にプリントすればオルソマップ(第24図)が得られる。
 - (6) メッシュデータを基に見たい角度からのCG(第25・26図)の作成も簡単に実行るので、いろんな角度から遺跡・遺構の検討が現地で行える。
- こうした直接現地で図化する方法のほかに、地形図からDEM(Digital Elevation Model)を抽出し、CGを作成する方法も遺跡・遺構の表現には有効である。遺跡平面図・遺構図からコンターデータを抽出し(第27図)、DEMを作成

する（第28図）。それらを基にオルソ画像をレンダリングすれば簡単にCG（第29～31図）が得られる。時代別に高さのデータが得られれば、遺跡の時代別の変遷がよりわかりやすくCGで表現することも可能であり、また、花粉分析のデータがあれば往時の植生を復元することも可能である。さらに同時期に存在した建物の確定ができれば、遺構の上部構造を復元して景観CGを作成し、3次元モデリングが可能であればアニメーションの作成も可能である。



第25図 CG（北から）



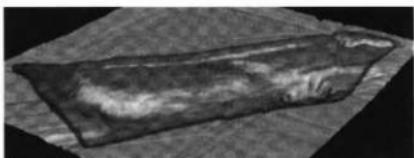
第26図 CG（南から）



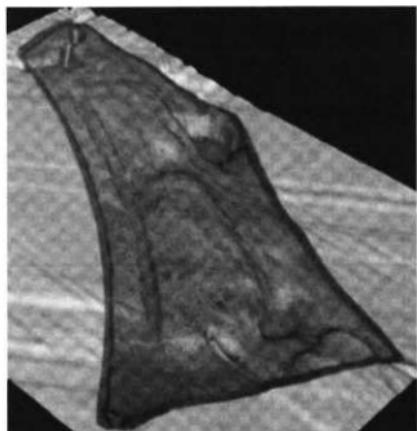
第27図 コンター図



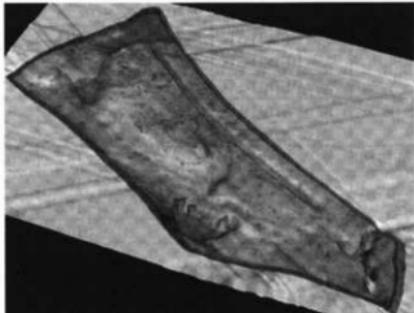
第28図 CGモデリング（センター）



第30図 レンダリングモデル（東から）



第29図 レンダリングモデル（南から）



第31図 レンダリングモデル（北東から）

遺物観察表

図版	番号	出土地点	器種	口径	底径	器高	焼成	色調	備考
第10図	1	SD01-P9	壺	10.4	1.8	16.0	不良	赤褐	赤彩(内面は口縁部のみ)
	2	SD01-P7	壺		丸底	(9.1)	良好	灰黄褐	
	3	SD01-1区	壺	15.7		(4.4)	良好	暗灰褐	
	4	SD01-P12	壺	14.8		(5.4)	良好	黄灰褐	
	5	SD01-4区	甕	14.4		(5.0)	良好	暗褐	
	6	SD01-2区	甕	16.3		(5.5)	良好	明茶褐	口縁外面～胴上半部煤付着
	7	SD01-3区	甕	13.0		(5.7)	良好	暗赤褐	
	8	SD01-4区	甕		6.6	23.0	良好	明灰褐	
	9	SD01-4区	甕	16.2		9.0	良好	明黄褐	口縁～胴上半部煤付着
	10	SD01-2区	甕	17.7		(16.0)	普通	暗茶褐	
	11	SD01-2区	甕	21.0		(5.0)	普通	暗黄褐	
	12	SD01-P1	甕	16.8		(16.0)	良好	明灰褐	
	13	SD01-1区	鉢	13.0	丸底	(11.3)	良好	明灰褐	
	14	SD01-5区	鉢	12.8		(8.8)	良好	明茶褐	
	15	SD01-P10	台付甕			6.9	不良	黒褐	
	16	SD01-2区	瓶			1.1	3.5	普通	暗褐
第11図	17	SD01-3区	蓋	2.7		(4.2)	不良	赤褐	
	18	SD01-2区	蓋	3.2		(4.2)	不良	暗黄褐	
	19	SD01-2区	ミニチュア鉢	5.8	2.6	4.0	良好	黄灰褐	
	20	SD01-2区	ミニチュア鉢	6.7		(3.8)	良好	黄灰褐	
	21	SD01-2区	环	10.8		(1.9)	良好	黄褐	
	22	SD01-3区	环	9.6		(2.7)	良好	暗褐	
	23	SD01-2区	环	12.6		(3.5)	良好	黄灰褐	
	24	SD01-2区	高坏	30.8		(3.9)	良好	赤褐	
	25	SD01-3区	高坏			(12.9)	良好	明灰褐	
	26	SD01-P5	高坏		11.8	7.1	良好	暗黄褐	
	27	SD01-P4	高坏		13.6	6.2	普通	黄灰褐	
	28	SD01-2区	高坏		10.0	7.6	良好	赤褐	
	29	SD01-P6	高坏		8.9	6.8	良好	淡赤褐	
	30	SD01-P8	高坏		14.9	5.0	良好	黄茶褐	
	31	SD01-2区	高坏			(2.6)	良好	暗灰褐	
	32	SD01-P2	器台	20.7		(11.6)	不良	明黄灰褐	
	33	SD01-P2	器台			(5.4)	良好	明黄灰褐	
	34	SD01-3区	須恵器 环	10.1	5.2	3.1	良好	灰	
	35	SD01-2区	須恵器 瓶			(8.7)	良好	灰青	
	36	SD01-1区	敲石					灰白	蛇紋岩
	37	SD01-1区	敲石					灰白	蛇紋岩
	38	SD01-S2	敲石					灰	花崗岩
第15図	39	D3-22	壺	13.2		(7.4)	不良	茶褐	口縁外面炭化物付着
	40	D3-33	壺	17.0		(4.1)	普通	明黄褐	
	41	D3-22	甕	17.8		(4.9)	普通	暗褐	
	42	E2-15	甕	18.8		(6.0)	不良	暗灰褐	
	43	D3-21	甕	13.3		(4.2)	普通	淡茶褐	
	44	C2-25	甕	12.0	4.9	(7.8)	不良	灰黄褐	
	45	D1-32	壺	19.0		(5.7)	普通	黄灰褐	

() は現存法量

	46	D1-14	甕	22.1		(3.7)	普通	灰褐色	
	47	D3-21	甕	26.8		(6.6)	不良	淡茶褐色	
	48	D2-25	甕	13.0		(7.1)	良好	黄褐色	
	49	D1-42	甕	18.5		(5.8)	普通	暗灰褐色	
	50	D2-54	甕			(6.2)	普通	暗灰褐色	
	51	D3-22	壺	10.1		(6.4)	普通	淡茶褐色	
	52	D1-33	ミニチュア鉢	6.6		4.5	不良	灰褐色	
	53	D3-31	蓋	3.0	5.4	5.1	不良	灰黄色	
	54	D3-52	壺			(5.6)	普通	黄褐色	
	55	E2-15	高坏	27.4		(13.4)	不良	暗茶褐色	
	56	D2-44-P1	高坏		11.3	(8.9)	良好	丹朱	
	57	E1-23	高坏			(7.7)	普通	淡黄褐色	
	58	D1-53	高坏			(8.8)	不良	黄褐色	
	59	D1-53	高坏	14.0		9.3	不良	黄灰褐色	
	60	E1-13,14	高坏			(5.3)	不良	灰黄色	
	61	E2-15	鉢			(3.7)	不良	暗茶褐色	
	62	E2-13	高坏		9.8	(8.5)	良好	暗黄褐色	
	63	D2-31	土鐘			6.1	普通	明灰黄褐色	
	64	C2-34	須恵器 長頭壺			(7.7)	良好	青灰	
	65	D2-23	須恵器 長頭壺				良好	青灰	
	66	B4-52	須恵器 壱蓋			(2.0)	普通	灰青	
	67	D1-24	須恵器 壱	12.0	6.3	4.8	不良	灰黄	
	68	C3-21	須恵器 壱	11.9		(2.3)	不良	黄褐色	
	69	E1-22	須恵器 壱		8.5	(1.7)	普通	暗灰褐色	
	70	D1-15	須恵器 壱		6.9	(4.0)	良好	灰白	
	71	D1-53	須恵器 壱			3.3	良好	青灰	
	72	D1-54	須恵器 壱	10.8		(3.7)	不良	暗灰褐色	
	73	C3-12	須恵器 壱	9.0		(3.3)	良好	黄灰	
	74	D1-43	須恵器 壱		6.0	(2.6)	不良	青灰	
	75	D1-14	須恵器 壱		5.6	(1.3)	良好	青灰	
	76	C3-12	須恵器 壱		6.0	(1.6)	普通	灰白	
	77	D1-23	須恵器 壱		7.0		不良	灰白	
	78	D1-54	須恵器 長頭壺			(3.4)	良好	青灰	
	79	D1-33	陶磁器 壱	8.2		2.6	良好	乳白	
	80	D1-43	瓦器 壱		8.4	(2.6)	良好	黑	
第16図	88	E2-14	敲石				灰	蛇紋岩	
	89	E1-12	敲石				灰	オリーブ砂岩	
図版	番号	出土地点	器種	長さ	厚さ	幅			
第16図	90	D2-55	木製品	22.6	2.7	11.7			
	91	D3-32	木製品	21.1	0.7	6.8			
	92	D2-55	木製品	8.0	0.4	4.1			
	93	D3-41	木製品	19.0	0.6	3.3			
	94	C5-12	木製品	9.6	1.1	3.9			
	95	C5-12	木製品	28.6	1.9	4.2			
	96	D3-51	木製品	30.8	1.2	1.8			
	97	E2-15	木製品	27.1	1.0	2.5			
	98	D2-55	木製品	56.0	(4.6)	(4.6)			
	99	D3-23	木製品	123.0	2.2	3.6			

() は現存法量



発掘調査前（北から）



発掘調査状況（北から）



SD01 発掘状況



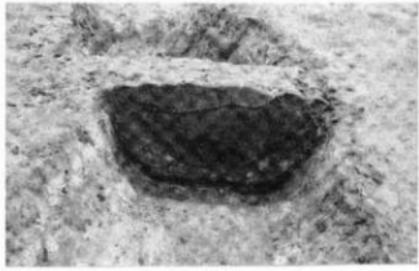
SD01 SPA-SPA'



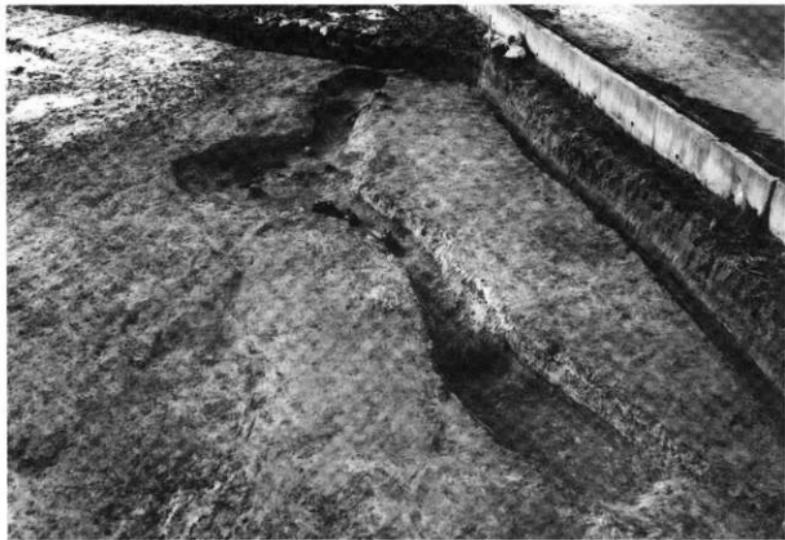
SD01 SPB-SPB'



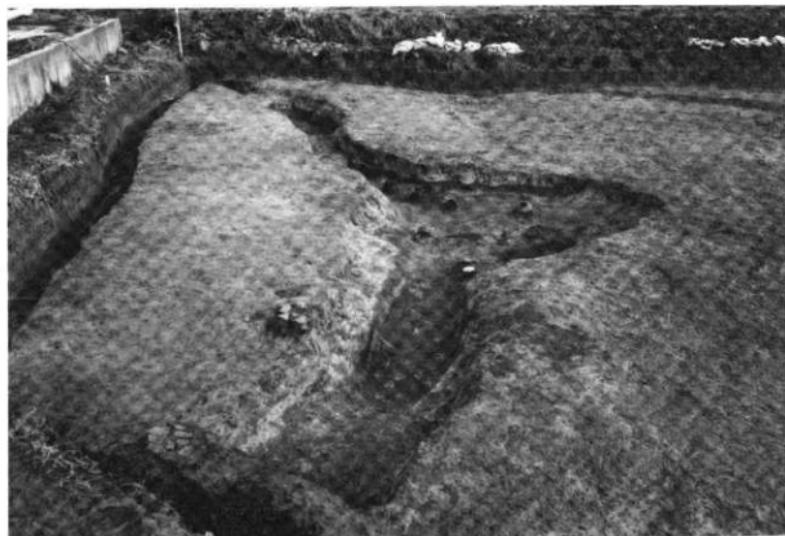
SD01 SPC-SPC'



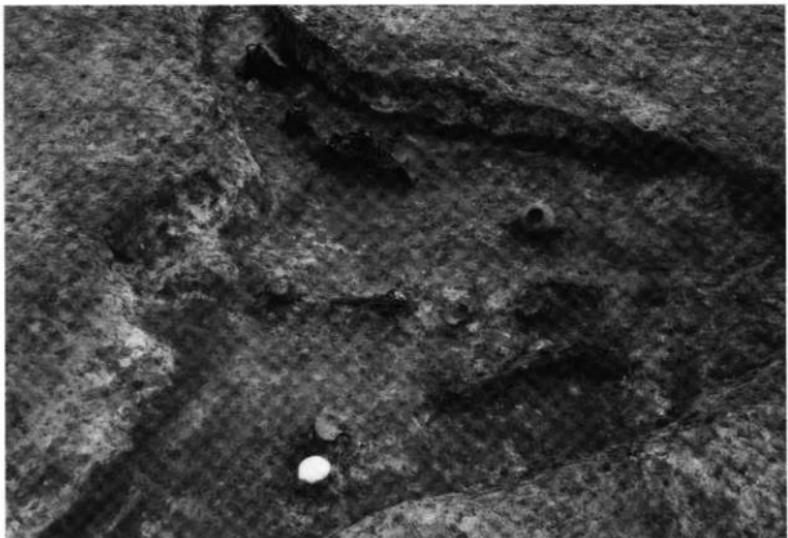
SD01 SPD-SPD'



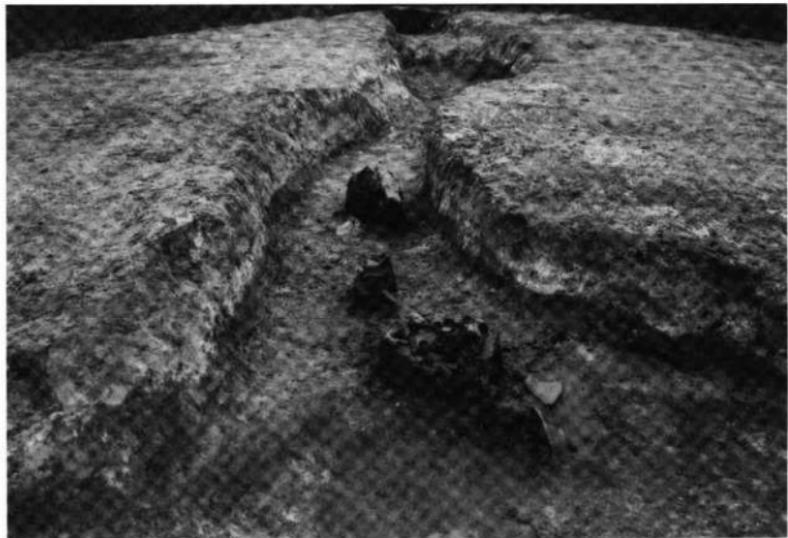
SD01 遺物出土状況（東から）



SD01 遺物出土状況（西から）



SD01 遺物出土状況（西から）



SD01 遺物出土状況（西から）



SD01 完掘状況（東から）



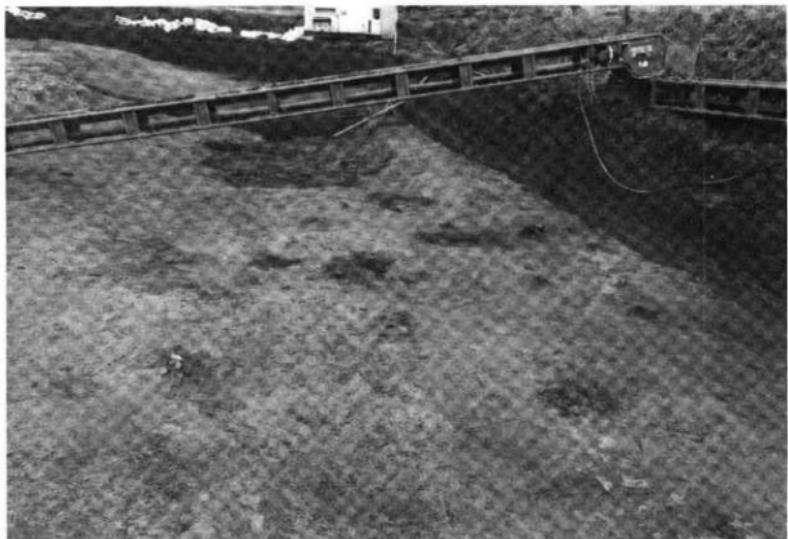
SD01 完掘状況（西から）



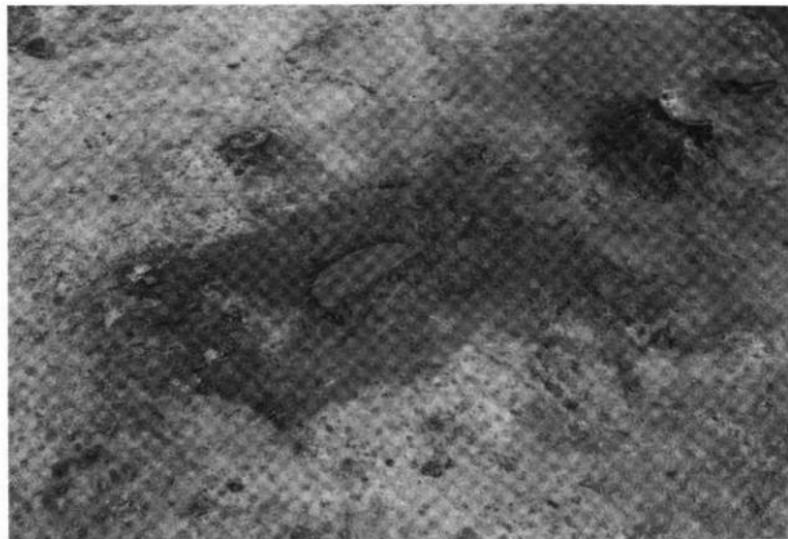
旧河道完掘状況（南から）



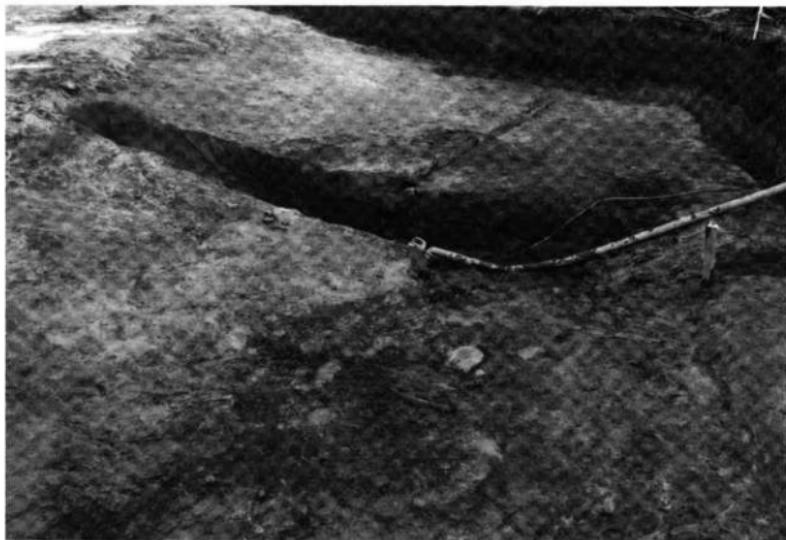
旧河道完掘状況（北東から）



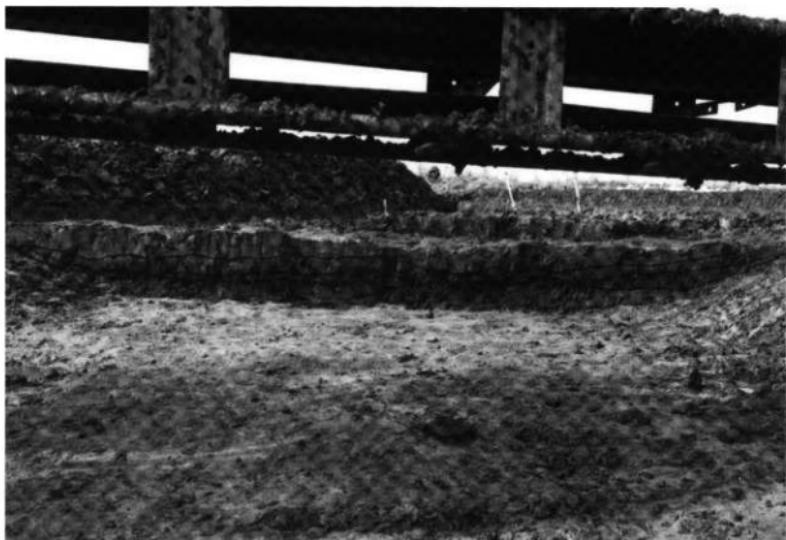
旧河道遺物出土状況



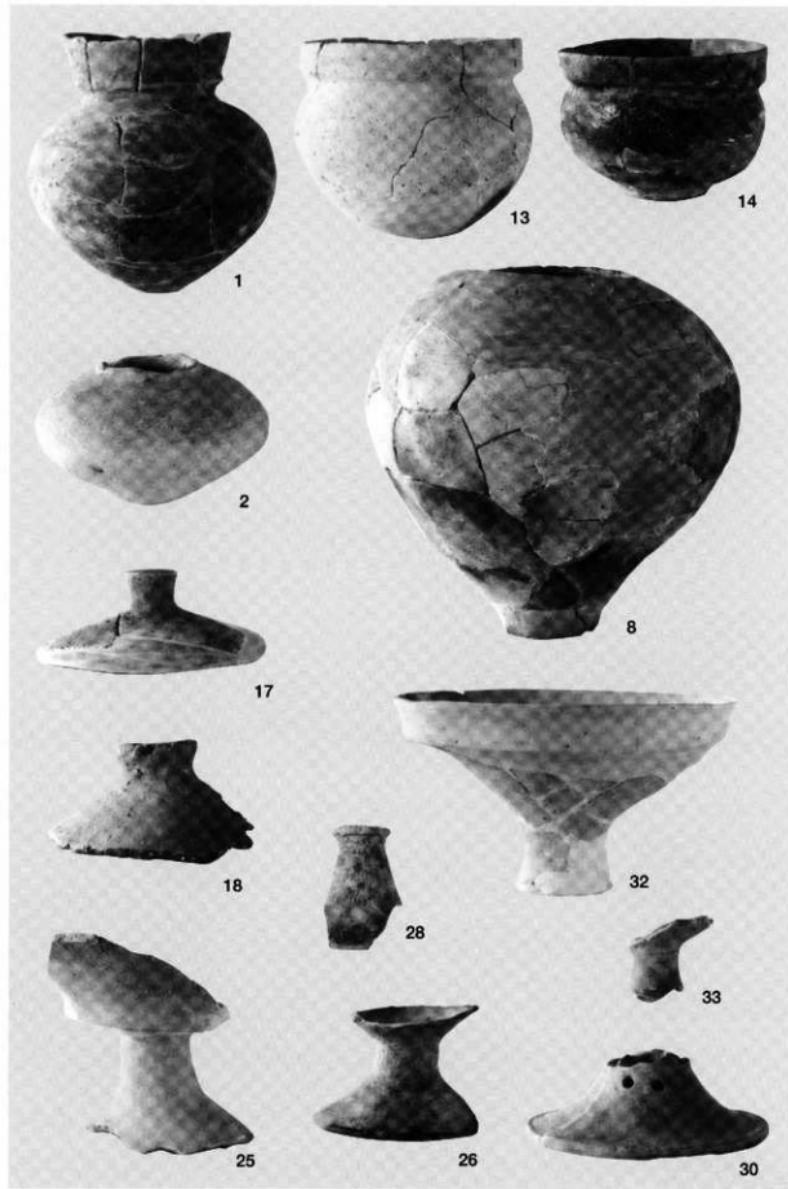
木製品・土器出土状況

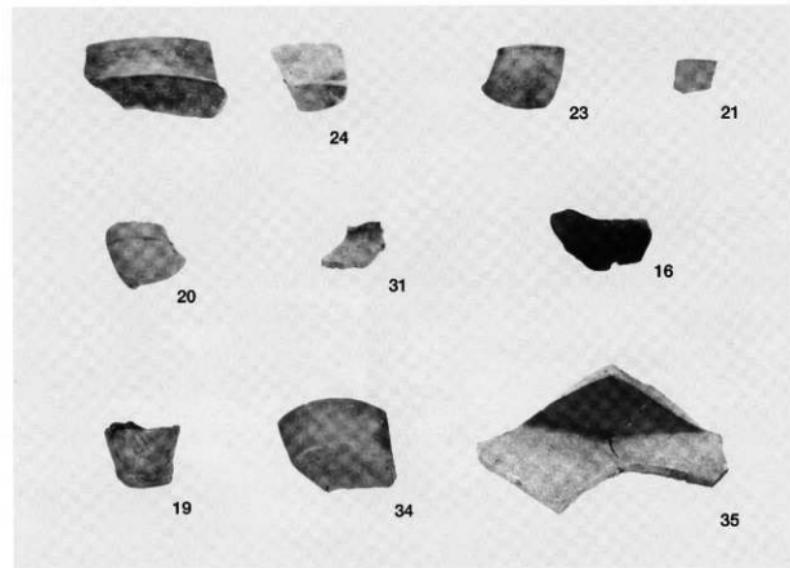
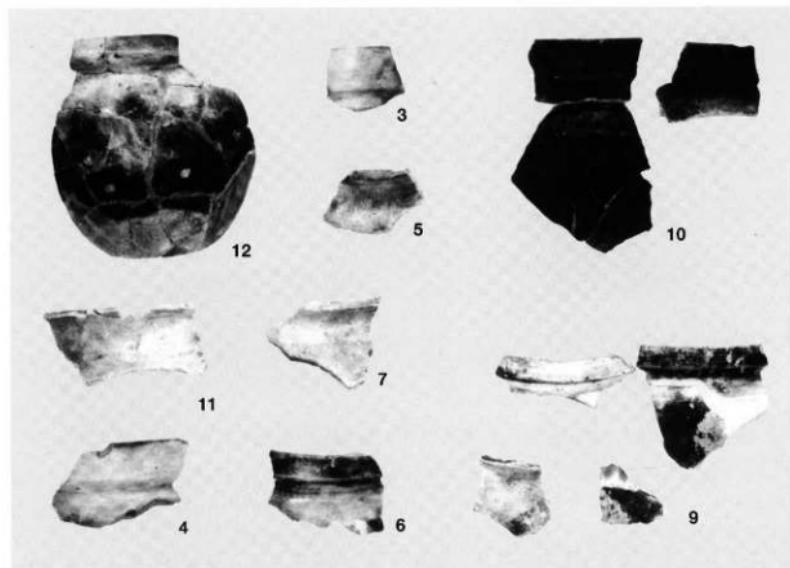


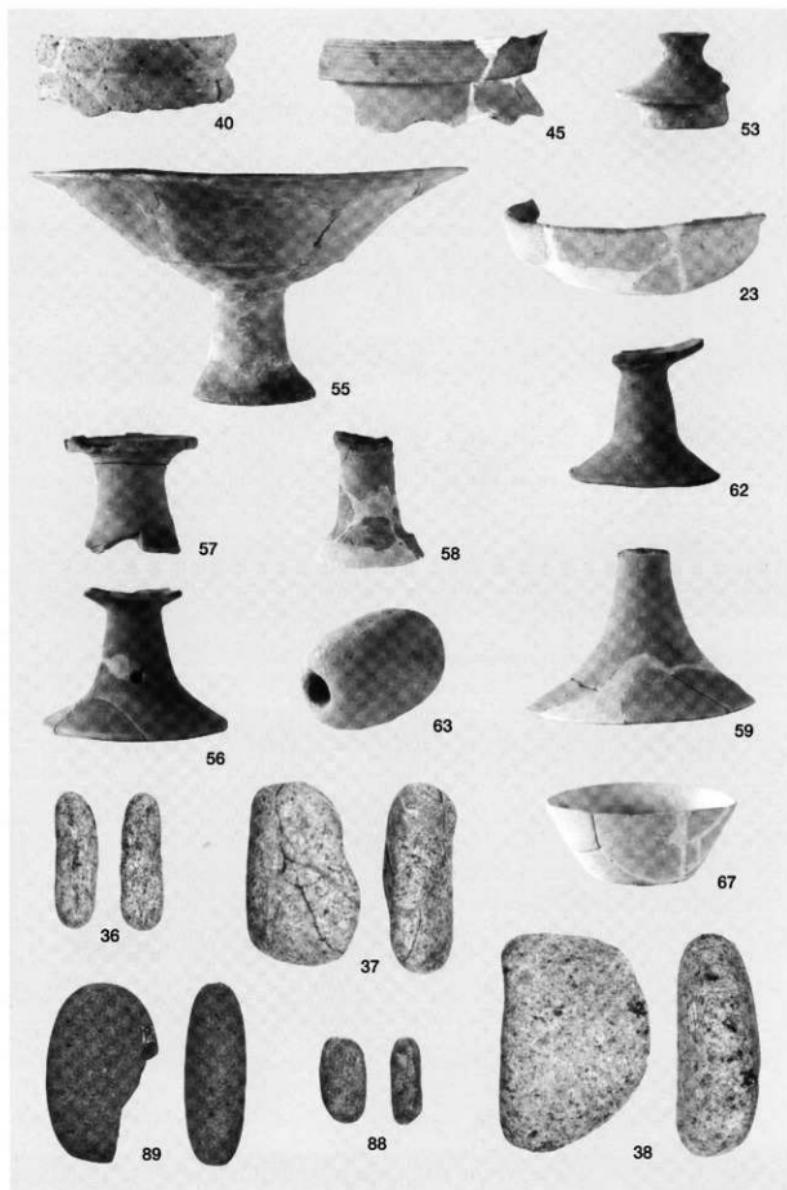
旧河道土壤堆积断面 SPA-SPA'

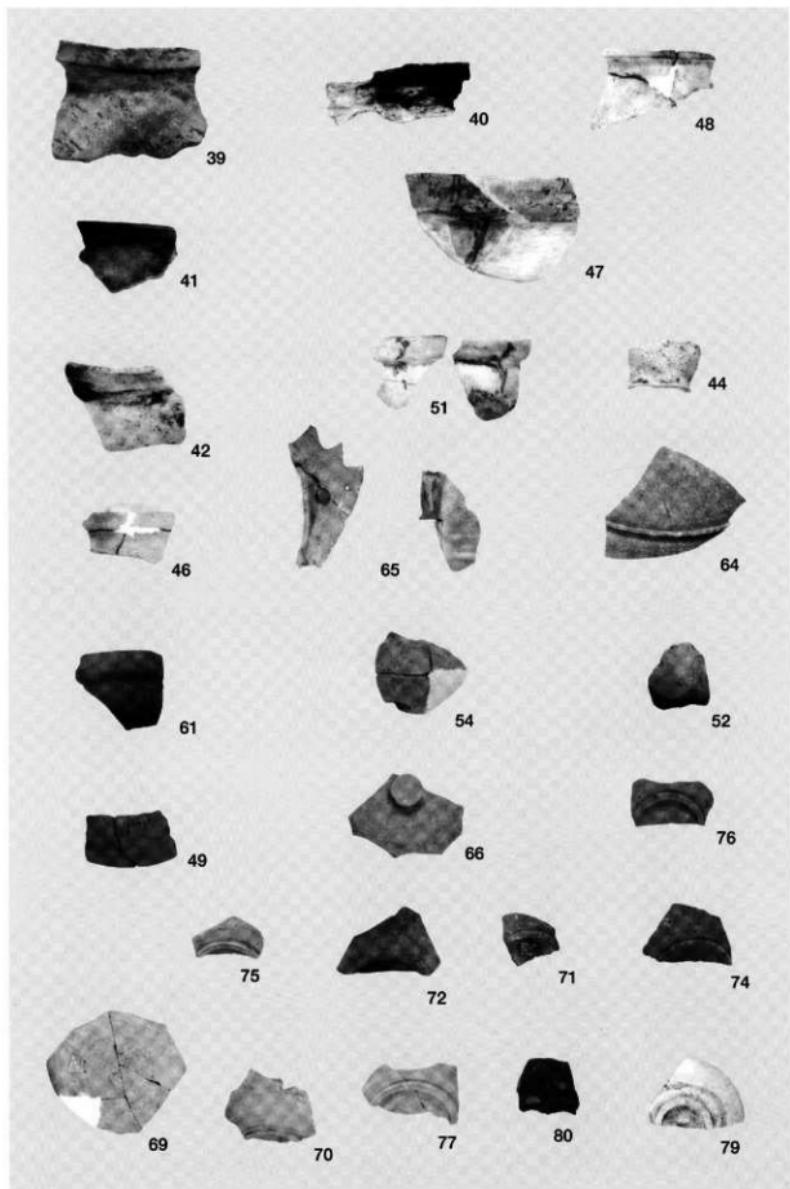


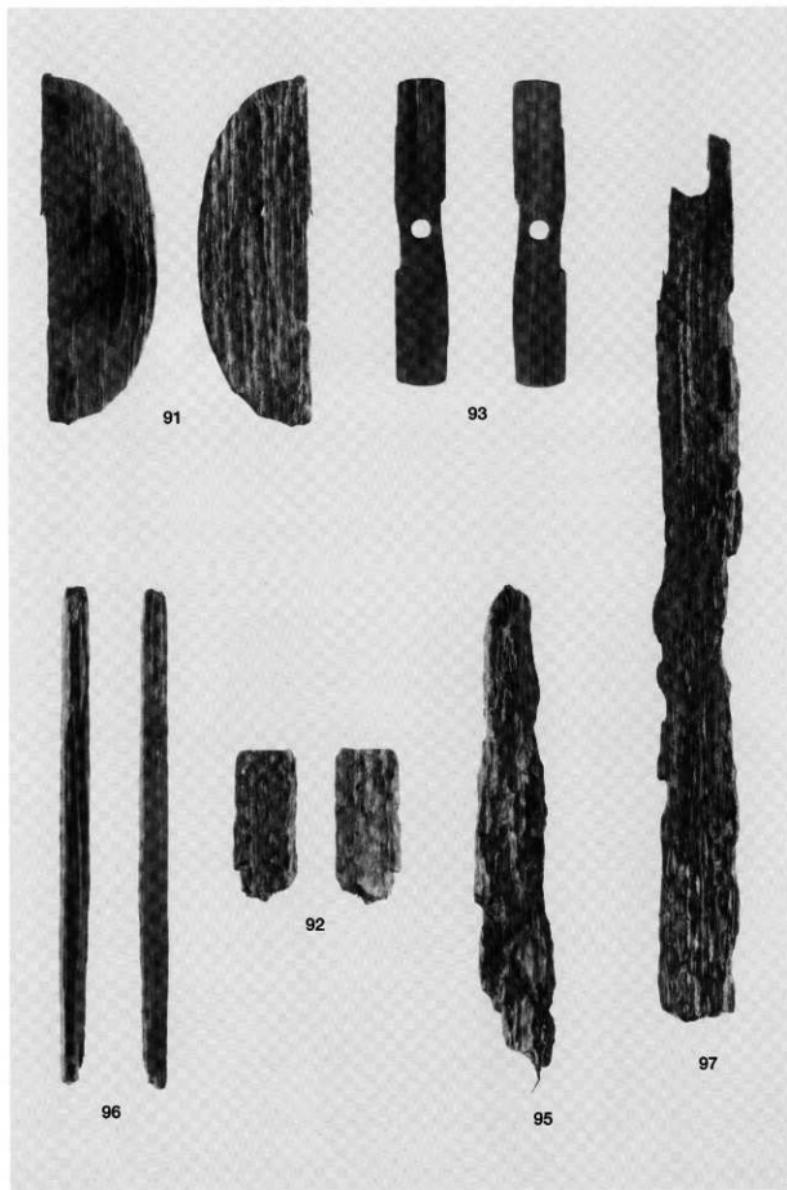
旧河道土壤堆积断面 SPB-SPB'













90



98



99

報告書抄録

ふりがな	はりはらにしいせき はっくつちょうさほうこく					
書名	針原西遺跡発掘調査報告					
副書名	町道針原テクノパーク線道路整備事業に伴う埋蔵文化財調査					
編著者名	原田義範、宮塚義人					
編集機関	日本海航測株式会社 富山支店					
所在地	〒939-8211 富山市二口町2丁目5番地15 TEL:076-422-2778					
発行機関	小杉町教育委員会					
所在地	〒939-0393 富山県射水郡小杉町戸坂1511 TEL:0766-56-1511					
発行年月日	西暦 2002年3月11日					
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コ一ド 市町村	北緯 遺跡番号	東経 ° ° °	調査面積 m ²	調査原因
はりはらにしいせき 針原西遺跡	いみず こすざ 射水郡小杉町 くろかわ ほか 黒河 21 外	16381	030	36度 42分 44秒	137度 07分 29秒	670m ² 町道整備
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
針原西遺跡	散布地	古墳時代前期 奈良・平安時代	溝 Ⅱ河道	古式土師器 須恵器 石器 木製品	溝は住居跡の周溝?	

平成 14 年 3 月 11 日 発行

針原西遺跡発掘調査報告

—町道針原テクノパーク線道路整備事業に伴う埋蔵文化財調査—

編集 日本海航測株式会社 富山支店

〒 939-8211 富山市二口町2丁目5番地15

TEL: 076-422-2778

発行 小杉町教育委員会

〒 939-0393 富山県射水郡小杉町戸破1511

TEL: 0766-56-1511

印刷 有限会社 牧

